

第2回 中部エネルギー市民会議

—— 会議録(概要版) ——

- 日 時： 平成 24 年 3 月 24 日(土) 13:00~17:00
- 会 場： 愛知淑徳大学 星が丘キャンパス 1号館 3階 (13C教室)
- 配布資料： ①「中部エネルギー市民会議」説明資料(裏:第2回はどこを議論するのか?)
② 朝日新聞 3/22 朝刊記事
③ 第1回 中部エネルギー市民会議 会議録(概要版)
④ 第1回 中部エネルギー市民会議 意見分布図
⑤ 参加者のコメント集(原発推進・原発反対・脱原発依存…その理由は?)
⑥ ご協力をお願い
⑦ 賛同人の募集案内
⑧ アンケートのお願い

◆ 1. オープニング 【30分】(13:00~13:30)

● 萩原 喜之(地域の未来・志援センター 理事長/呼びかけ人・事務局)

- ・ 中部エネルギー市民会議の説明と、本日のプログラム説明(資料①、資料②)
- ・ 第1回(3/4)のふりかえり(資料③)
 - ① 事故原因について
 - ② 参加者からの様々な意見について(資料④)

● ブイ チ トルン(愛知淑徳大学 文化創造学部部長/コミュニティ・コラボレーションセンター長)

- ・ 80年代は国際協力のNGO関係、90年代はNPOの導入など市民活動に関わってきた。
- ・ この会議の事は以前から聞いており、会場がないとの事だったので協力させていただいた。
- ・ 若い世代にエネルギーのことを理解してもらいたい。彼らの力で、どうやって社会を変えていくか、貢献できるかということを考えている。

◆ 2. 原発推進・原発反対・脱原発依存… 話そう!その理由 《前半》~ いろいろな立場の方からのコメント ~

・ 司会

● 飯尾 歩(中日新聞 論説委員/呼びかけ人)

- ・ 自分がどういう風に思っているのか、他の人の意見を聞きながらでないともとまらないところもあると思う。議論は深めると分かりやすくなるもの。その例として気楽に聞いてもらいたい。
- ・ 発言者の方々には、今世の中にある用語にとらわれず、自分で勝手に定義してもらっているので、それぞれどんな立場で参加しているのか、なぜそうなのかを話してもらいたい。

・ 発言者

● 今尾 忠之(中部電力 原子力部・環境部 OB/呼びかけ人・事務局)

※ エネルギー供給や発電構成比の推移、各国のエネルギー自給率、家庭部門の用途別エネルギー消費量、発電コストなどについて図表を使って説明した。(詳細はWebの資料および動画をご覧ください。)

- ・長い目では脱原発依存。今は原発は必要。今の私たちの暮らしを支えている産業は安価で安定した供給が求められるので原発ははずせないのではないか。
- ・新エネや省エネはどんどん取り入れていくべき。しかし原子力が寄与している部分をそれらでまかなうには数十年の時間がかかるだろう。安全対策と国民の理解は大前提に、ここしばらくは原発は必要。

● 関口 詩織 (脱原発×STOP 浜岡 代表/国際基督教大学1年/呼びかけ人)

- ・震災をきっかけに様々な活動をしている。自分は卒原発の立場。今回の事故は人災。今までつながってきた命の営みの一人であるという意識が大きい。
- ・原発を今止めるべきと言う考えは、他人に迷惑を掛けない事と同じで当然過ぎること。
- ・身の丈にあった生き方をしたい。最終的には大きな発電施設に頼らない、地域分散型のエネルギーを使っていきたい。人の命、多くの人の幸せを大事にすることを前提にして、どんなエネルギーが必要か、どういう使い方をしていくかを考えていきたい。
- ・核は人には扱いきれないのではないか。土地に住めなくなるというリスクは大きすぎる。核燃料サイクルは技術的に厳しい。廃棄物の処理もただ埋めればよいというものではない。

● 竹内 恒夫 (名古屋大学大学院 環境学研究科 教授/呼びかけ人)

- ・原子力の事故や環境汚染は人間には制御できない。制御できないものは使わないという立場。原発の是非で社会的な対立があるなら、その原因をなくしてしまうのが一番。
- ・以下の項目について図表を用いながら検証した。(詳細はWebの資料および動画をご覧ください。)
 1. 原子力発電なしでもピーク電力をまかなうことができるか。
 2. 原子力発電なしでも年間の電力需要を満たすことができるか。
 3. 原子力発電なしでも総電力コストは高くないか。
 4. 原子力発電なしでもCO2排出量を減らすことができるか。

● 松原 武久 (前名古屋市長/呼びかけ人)

- ・自分は脱原発依存の立場。脱原発依存と脱・卒原発の違いは時間軸。時間軸を考えれば脱原発依存でいかないと現実的には社会が成り立たない。
- ・戦後の原子力の平和的利用については、基本的に国民的な合意を得て進めてきた。それでも、政府の前のめりの姿勢に危機的なものを感じる。情報はまだまだ集まっていないし、市民に分かる形で開示されていない。
- ・最終報告が出ていないやむやの状態では政治判断をしてはいけない。研究者・行政・政治家・業界の言うこと、国民みんなが本当かと思っている。発言が信頼できる組織を作っていくことが大事。
- ・すぐ脱原発と言うが、エネルギーを使う自分の生活と比べての根拠を持つべき。様々な情報を揃えた上で、みんなですっかり議論するべき。

※ A4の紙に、「①お名前（自己紹介）」「②立場」、「③その理由」を記入。

・ **会場からのコメント**（※ 最初の2名は、発表いただく旨を事務局が事前に依頼）

● 星野さん（養護学校の先生）

- ・ 立場としては困惑者、迷っている。原子力発電は卒業したい。理由は、安全と言いきれないという科学的な部分と、人間は生態系の一部にもかかわらず自然を壊して生きる意味はあるのかと言う哲学的な部分。
- ・ エネルギーについて実態がわからない。原子力に頼らずにやっつけられるか分からない。電力消費の8割は産業界と前回聞いたが、産業を止めると日本はやっつけられない。今の社会の中で生きていく方法を話し合うことで考えていきたい。
- ・ エネルギー資源が危ういと言われ、産業が傾いていると言われていた日本だが、若者の一人としてこの先の未来を楽しみにしている。私たちの世代は恵まれた社会の中で過ごしてきたが、自分で作り上げたと言う経験がない。今は自分たちで作っていきよう、やってみようという気持ちになっている。
- ・ 色々な人が交じり合い考えていける場はありがたい。未来を希望を持って考えていきたい。

● 天木さん（放送局の会社員）

- ・ 基本的に脱原発だが、電力が足りているとは思っていない。今後も節電で乗り切れるかもしれないが、日本経済に影響が出るのでは。今はわずかな停電でもコンピュータに影響が出る。
- ・ 電力消費のピークはいつくるか分からない。原発の代わりに動いている火力発電のコストは持たなければいけない。脱原発をするとどんな影響があるのか、事実を冷静に見て国民が判断して決めるべき。
- ・ 脱原発ならいつ止めるのか、議論が必要。灰炉にしても放射性廃棄物の管理が必要、逃れることはできない。逃れることができないなら使っても同じと言う議論も出てくるのでは。
- ・ 何が何でも脱原発とは思っていない。東京に原発を作ると言えるくらいの自信を持てる安全性の確保を。資源もいつまでもあるわけではない。私たちが、私たちの未来をどうしていくのか自分たちで決めていくものだと思う。

● 後藤さん（十数年前、浜岡原発で働いていた方）

- ・ 専門家は一般の人に分かりやすい説明が必要。最終的にはそれぞれの思想・哲学がある中でお互いを理解した上で賛成・反対があるといい。

◆ 3. **原発推進・原発反対・脱原発依存… 話そう！その理由**
《後半》～ ワークショップで「そう思う理由」を出し合う～

・ 進行

● 水谷 香織（パブリック・ハーツ 代表／合意形成 専門家／呼びかけ人・事務局）

- ① 会場設営、グループの人数調整
- ② 目的、進め方の説明
- ③ 5,6人のグループで「③その理由」を共有

- (1) 自己紹介（お名前と一言）
- (2) フィリップ（A4紙）の紹介
- (3) 自由に意見交換

④ 全体で、何名かから気づき、感想を発表

⑤ 「気づき、感想」をフィリップ裏に記入

⑥ 「気づき、感想」を発表（会場からのコメント）

- ・原発は自然に勝てないのに知識だけで論じてきたのでこうなった。多様な方と出合って話し合って有意義でした。
- ・私たちの就職の事とか、次の世代にも今の生活水準を受け渡してあげたいとかのお話を聞いたが、私は今の生活を見直して違う価値観で生きていきたい。そのような(世代間の)価値観のギャップがあって、原発に対して意見が割れるんだなあと改めて感じた。原発が止まったら日本の経済も止まってしまうとか、国際競争力が失われるとか、資源確保の切り札にされてしまうとか、そういう想像のほうは全くできない。そういう現状についても知りたいが、本当にあるのかどうか…。
- ・多様な社会を目指したい。エネルギーも生き方も選べる社会。国家から言われるのではなく、自分達で決めていける社会にしていきたい。
- ・日本はドイツの例を参考にすべき。国家目標を決めて、原発はすぐに止め、自然エネルギーの比率を上げながら、そのつなぎは天然ガスで賄うべき。

★ 記入頂いたフィリップは回収して記録した。(Web資料をご参照ください)

◆ 4. クロージング

・ 今回のふりかえり、意見交換

● 萩原 喜之（地域の未来・志援センター 理事長／呼びかけ人・事務局）

- ・ 前回の反省から、余裕を持ったプログラムで開催したが、熱心な議論で押ししてしまった。
- ・ 今日ドイツからも参加がある。IWJの生中継を見た呼びかけ人の杉山さんからメールが頂いた。「今朝5時起きで前半の生中継、拝見しました。後半も頑張ってください」
- ・ 次回以降の内容について、先ほど呼びかけ人の一人の木船さんと意見交換をした。専門家と素人、知識を持っている方と持っていない方、技術を知っている方と知らない方が、どういう風にコミットしていったらいいのか、例えばガレキの受入れや放射能被害の問題など。多様な専門家の方々をお呼びして、放射能のことを理解する機会というのでもいいのかなど思っている。脱原発のシナリオを考えるにあたっては避けては通れないテーマだから。

● 木船 久雄（名古屋学院大学 学長／経済専門）

- ・ 制御できないものは止めたほうが良いと竹内先生はおっしゃっているが、技術にはエラーがある。エラーを重ねて技術になっていく。原子力発電の場合はエラーになってしまったら大惨事で目に見えない放射線が怖いとなるが、本当にどの程度怖いのか。そこが分からないまま議論されているように思う。
- ・ 放射線医学の専門家の方から、放射能のこういうのが危なくてこういうのが危なくないといった話を聞いたほうがよいと思う。

● 萩原 喜之（地域の未来・志援センター 理事長／呼びかけ人・事務局）

- ・呼びかけ人同士も意見が様々だということがお分かり頂けたと思う。どちらにしてもタイムリーな話題を第3回目のテーマにしたい。今日の皆さんの意見を元に組み立てたい。
- ・今尾さんは中部電力の元職員という立場で参加しているが、中部エネルギー市民会議の事務局という立場で中部電力ともやり取りをしている。中部電力も組織としてこの場に参加してほしいとおっしゃっています。

● 今尾 忠之（中部電力 原子力部・環境部 OB／呼びかけ人・事務局）

- ・今、中部電力として、どういう状況にあって、どう考えているのかについて、知る必要があると思っている。中部電力の組織としてこの場に出て欲しいと打診している。今日の議論でもそうだったが叩かれるだけとなると非常に出づらいことは分かるが、電力会社としてどう考えているのかについては、共有すべきと思っている。

● 萩原 喜之（地域の未来・志援センター 理事長／呼びかけ人・事務局）

- ・中部電力が積極的に出たいと思うかは、この場の雰囲気にかかっている。今回も前回も、個人の形で現職の中部電力の職員の方も参加している。その方々にもこの会議の雰囲気を組織に戻って伝えてもらいたい。

・ 事務局からの連絡事項（資料⑥、資料⑦）

● 萩原 喜之（地域の未来・志援センター 理事長／呼びかけ人・事務局）

- ・少人数で運営している。間違っても偏った所からお金を頂いて進めることはしたくない。信頼を失いたくないという意味で、一人ひとりの人・物・金・情報の協力で成り立っている。
- ・「賛同人」という形でもご協力頂きたい。この会を「広げて頂ける方」。併せて金銭的な支援も可能な方は1口5,000円の寄付もお願いしたい。賛同人と寄付はセットではない。
- ・他の協力の形もある。「朧月夜～祈り」というCDを出されるオカリナ奏者の鈴木夏織さんからは、CD購入費の一部（約300円）をこの会にチャリティとして頂くことになった。4月下旬にアマゾンから購入可能とのこと。こういう支援の形も広がるといい。

◎ 唐沢さん（愛知淑徳大学 学生／今日のお手伝い）からの感想

- ・日本を早く逃げ出したいと思っていた。日本に何も任せたくなくて。今日は、いろいろな方の話を聞いて、自分の国だから考えなければと思った。原発の記事や今回のような会に参加したいと思った。

◎ 山下さん（愛知淑徳大学 学生／今日のお手伝い）からの感想

- ・原発に携わってきた方の立場と、そうではない立場とか、いろいろ思うところがあった。どうしても人ごとになってしまう所がある。今の若い人はあまり考えていないと思うので、ここが若い人がもっと参加して考えていける場になっていけばいいと思った。

● 庄司 知教（中部リサイクル運動市民の会 職員／呼びかけ人・事務局）

- ・「参加者アンケート」の記入をお願いします（資料⑧）。
- ・次回は5月上旬～中旬に開催予定。内容は今回の皆さんのご意見を元に組み立てます。

以上